

消化管外科

■ 研修概要

京都大学消化管外科では関連診療科と連携の上、大学病院の特色であるハイレベルな医療の実践を通じて、将来外科を志望する研修医だけでなく、他科を志望する研修医にとっても必ず役に立つ外科的発想・治療手段の習得を目指します。腹腔鏡手術については世界をリードする施設の一つであり、最先端の医療に触れながらの研修は京都大学ならではのものです。

■ 研修内容

実際に患者さんの担当医となりチームの一員として主に周術期の管理および手術を学んで頂きます。当科の特色としてスタッフの先生方と研修医の先生の距離が近いことが挙げられます。診療中困った時はいつでも気さくに連絡がとれる雰囲気であり先生方の診療業務をサポートいたします。また、外科研修はしてみたいが体力的に心配な先生方々にも配慮を行っております。もちろんバリバリ外科研修がしたいという先生方にはハードな研修も受け付けており、可能な限り実際に手術に参加し手技を行ってもらえるようにしています。

(例：皮膚縫合、CVポート挿入、胸腔ドレーン挿入など)

全研修期間を通じてスタッフミーティングで各自の到達度を評価しながらそれをフィードバックしていきますので、疑問点はどんどんスタッフに尋ねてください。

■ 研修目標

1) 当たり前の医療人に

大学病院では一人の患者の治療に医師だけでなく、看護師、薬剤師、ME等様々な職種の方が関わります。チームのなかでヒトを看、ヒトを癒すのもヒトであることをどうか忘れないでください。他職種間における良好なコミュニケーションは仕事効率のアップにつながります。挨拶も大切です。「名前前で呼ぶこと」も重要です。患者およびその家族とのコミュニケーションも大切です。良好な医療者-患者(家族)関係はトラブルを最小限にとどめることが可能になります。

2) いろいろな「学び」を

初めて経験する疾患については、その一般的病態を理解する必要があります。まずは自分で勉強してください。最新の情報を得、治療方針決定に役立ててください。カンファレンスでのプレゼンテーションは特に重要です。その場で各自がその症例についてどれ程深く“考え”、判断し、“決断”できたかが問われます。指導医とともに治療計画の決定に携わってください。

機会があれば地方会での学会発表を行い、プレゼンテーションスキル向上に役立ててもらいたいと思います。

「学ぶ」場所はどこにでもあります。指導医だけでなくメディカルスタッフからの「学び」、患者さんからの「学び」を大切にしましょう。

3) 必要な検査の決定と結果の解釈

採血一般検査、各種画像診断の選択とその順序を判断し、オーダーできるようになってもらいたいと考え、毎日のレビュー(ミニカンファレンス)を行っています。

4) カルテ記載について

当直のDr、他科のDrがみてもすぐに患者さんのことが把握できるカルテが良いカルテです。電子カルテシステムの導入により、検査データや画像診断の結果などが容易にcopy & pasteできるようになり、カルテの体裁を整えることは簡単になりましたが、問題はその中身です。理学的所見（その医者が現場で診察して何をみたか）、諸検査の結果とあわせてどう判断し、どのような対処を行ったか、そしてその結果がどうなったか（評価）について、“医者の方のプロセス”を示すカルテを記載してください。手術記録やサマリーについても同様です。

5) 手技：末梢静脈確保、動脈採血、胸腹部エコー、結紮、皮膚縫合、腹腔鏡などを習得してもらいます。

6) 自己研鑽と向上性の維持：研修期間は2ヶ月と短いですが、研修に成功した人は、最後には顔つきそのものが変わってきます。その理由はまさにこれです。肝に銘じて精進ください。あらゆる治療行為は必ず指導医の決定・指導の下に行いますが、その際に「多分、こうするだろうな。」と、自分で考えておく事がそのコツです。最初は全く分からなくとも、研修期間中に“指導医と同じbrainになる”（同じ考え方のプロセスをたどる事ができる）事をまずは目標とし、いつかは必ず医者として指導医を抜いてください。これが我々指導医の願いです。

■研修が推奨される診療科

消化器内科、腫瘍内科、産婦人科、泌尿器科、呼吸器外科、肝胆膵移植外科、麻酔科など

■診療科からのメッセージ

研修をどの病院で行うかについて、みなさん色々お考えの事でしょう。大学病院の特に外科系診療科について、一昔前はその労働環境の過酷さが取り立てられ、敬遠されがちであった感は否めません。その上、スーパーローテーションが始まった結果、「自分は外科医にはなりたくないのに、仕方なくどこかで外科研修を行わねばならない。一体、何を学ぶのか？」と感じている方も多いと思います。不安に思われる方は、どうぞ、一度実際の診療現場を見学にいらしてください。京都大学外科の、診療・教育・研究のプロフェッショナルとしての自覚と熱意に溢れたスタッフが必ずやみなさんの期待に応えてくれる事でしょう。「治療の難しい症例が大学病院に集まってくることは承知、それだけ大きな責任を担い、仕事が大変なのは当たり前」といったアツイ人々が働いています。みなさんはそれを見て、どう感じるでしょうか？短い研修期間ですが、自分が何をしたいか、何が自分に合っているのかを考えて、自らの道を切り開く医師になってもらえるよう、スタッフが生身をさらして示し、みなさんをサポートいたします。

■問い合わせ先

・消化管外科

小濱 和貴 准教授

連絡先：075-751-3650

(担当：肥田 侯矢 病院講師; e-mail: hidakoya@kuhp.kyoto-u.ac.jp)